

雲雀っ子

令和7年1月 日発行



「美しい心」をもった那加二っ子

校長 奥村 美樹恵

1月上旬、差出欄に「各務原市在住男性」とだけ書かれたお手紙が学校に届きました。

私は各務原市に住む80歳台の男性です。

12月23日（火）午後3時頃、私は図書館から帰っていました。市民公園の東側駐車場の北側歩道を歩いていると、前に小学校の男の子と、女の子が歩いて帰っていました。

駐車場出口を少し過ぎた歩道上に、紙袋に入っていたごみと、レジ袋に入っていたおにぎり包装紙や卵の殻などのごみが多数散乱していました。通過する二人がどんな行動をするのか見ていたら、二人でごみを拾い始めました。私も手伝わざるをえません。三人でごみを紙袋とレジ袋に集めました。袋を見て「これ、どうしよう…」と困惑して言う男の子に「おじさんがお家に持つて帰るから」と言うと、二人が声をそろえて「ありがとうございます」と言うのです。お礼を言いたいのは私でした。二人の行動がなければ、私はそのまま通り過ぎたに違いありませんから。私はお礼を言って、二人と別れました。

その他御校の児童は道ですれ違う時に、元気に挨拶をしてくれます。実に気持ちがいいものです。

この道徳がおざなりにされがちな世知辛い時代、素晴らしい教育をされていると思います。今後も続けていただきたいと思います。心より応援しております。

大変嬉しい内容でした。

実際にごみ拾いをした二人は「道路にごみがいっぱいあって、拾った方がきれいになるだろうなって思つたので拾った」「おじいさんも一緒に拾ってくれたし、ごみを持って帰るよ、って言ってくれたので、感謝しかない。だからありがとうって言った」と話してくれました。素晴らしい心だと思いました。

12月の「雲雀っ子」でも地域の公園を掃除する子供たちを見て、学校に「嬉しい姿です」とご連絡をいただいたことを紹介しましたが、自分たちの町をきれいにしよう、自分にできることをやってみよう、と行動できる子供たちが増えています。

また、令和6、7年度と桜中校区学校運営協議会でも、「挨拶」を重点としています。子供たちだけではなく、子供たちの手本となれるよう大人も意識して挨拶をしていくと地域あげて取り組んでくださっています。11月の「雲雀っ子」で、「ご家庭の挨拶の取り組みを紹介してください」と投げかけたところ、このような取り組みを紹介していただきました。

●登下校をしている子どもたちを見ると、小学生中学生関係なく、「行ってらっしゃい！お帰り～」など声をかけるようにしています。また、見守り隊の方にお会いした際は、ありがとうございます。と感謝を伝えるようにしています。

●朝と夜寝る時は必ず顔を見ておはよう、おやすみを言います。学校や仕事に出かける時はいってらっしゃい、いってきます。帰ってきたら必ずただいま、おかえりを必ず言っています。我が家の中取りは家の真ん中に階段を設計していて必ず家族の誰かに会わないと2階の子供部屋に行けない仕組みにしてあります。

保護者の方々が意識して子供たちに、地域の方々に挨拶をしてくださっている姿は、子供たちの手本となり刺激になっていると思います。子供たちの姿がこのように高まっていくのは、家庭（保護者の皆様）、地域の皆様と学校とが、よりよい子供の姿を目指し、一緒になって取り組んでいるからだと思います。ごみ拾いをした子供が「挨拶には、おはよう、さようならだけでなく、いろんな挨拶がある」と話してくれましたが、時と場に応じた様々な挨拶を子供たちができるようになっているのも嬉しいことです。

「美しい心」をもった那加二小の子供たち。子供たちの成長、活躍がますます楽しみです。